

第81号 通巻15巻 第2号
1995年 7月 1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

☆ 伊勢 - 大洲遺跡で鏡と玉が出土 ☆

鏡と玉が出土したのは、伊勢遺跡のなかでも東端に近い地点で、弥生時代の集落が廃絶した後、4世紀の末ころに掘りくぼめられた小穴から発見されました。

発見された玉は、勾玉、管玉、ナツメ玉、白玉の4種類で碧玉や滑石、緑色凝灰岩などで作られています。また鏡は青銅で作られた素文鏡で、粉々に割られて埋められていました。集落の中から鏡と玉がセットで出土するのは大変めずらしく、何らかのまつりが行なわれていたと思われます。

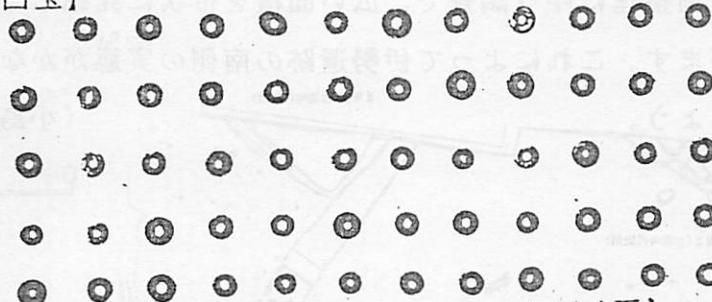
【素文鏡】



素文鏡 = (大きさ) 直径 3 cm
(材質) 青銅製
(時期) 古墳時代前半期

白玉 = 60 1
管玉 = 10 1
ナツメ玉 = 7 1
勾玉 = 9 1

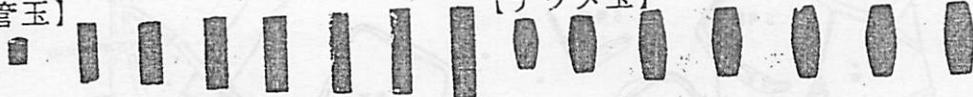
【白玉】



【管玉】



【管玉】



【ナツメ玉】

【勾玉】



☆ 発掘調査だより ☆

SSS SSS SSS 調査終了 SSS SSS SSS

1. 伊勢遺跡 第28次調査

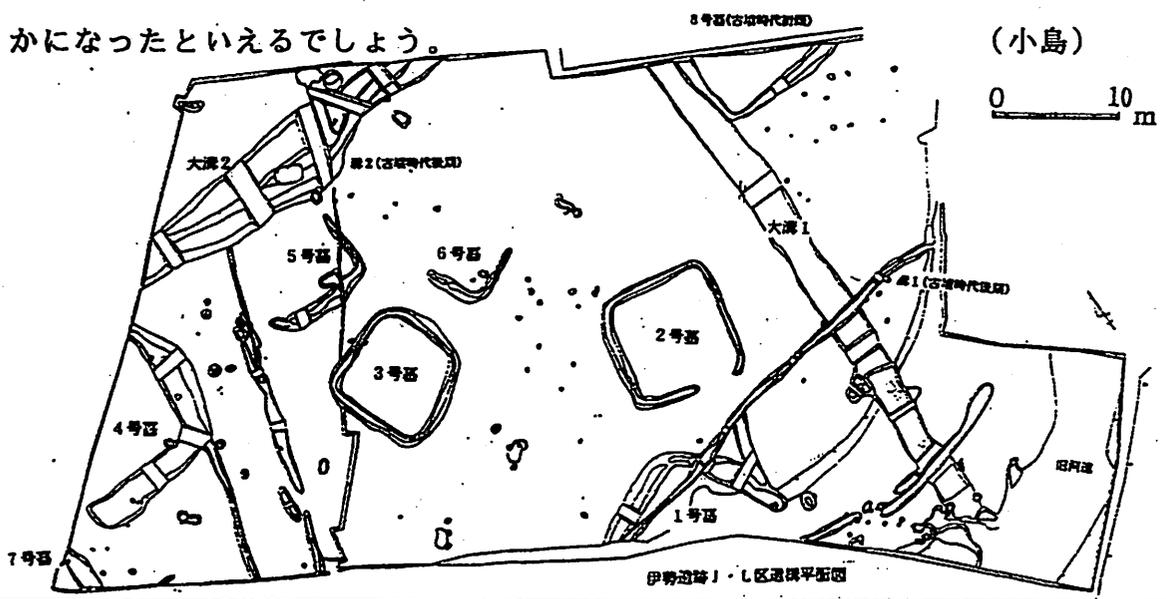
調査地 伊勢町字南東浦 84-1 地

調査面積 約 2,000 m²

調査実施の理由 土地区画整理

平成5年10月から区画整理工事に先立ち実施してきた発掘調査も、埋め戻しを残してほぼ終了しました。この間、縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が見つかるなど、大きな成果をあげることができました。なかでも、弥生時代後期の遺構は区画溝、旧河道、方形周溝墓群などが検出され、数年前から新聞等をにわわしている伊勢遺跡の弥生集落を考えるうえで、重要な資料を追加したと言えます。この調査で最後の調査区となったJ・L区(JR琵琶湖線横)からは弥生時代後期の大溝2条(大溝1・2)、方形周溝墓7基をはじめ、古墳時代初頭の方形周溝墓1基、古墳時代前期の大溝1条、古墳時代後期の溝2条などが見つかりました。大溝1は、従来考えられていた居住域の西限で見つかり、集落をとりまく環濠の可能性があります。古墳時代初頭の方形周溝墓(8号墓)は大溝1を壊して造られており、このころには大溝1はすでに埋もれていたと思われます。

今回の第28次調査は区画整理に伴う調査で、広い面積を帯状に発掘し、調査面積は約12,000m²にも及びます。これによって伊勢遺跡の南側の実態がかなり明らかになったといえるでしょう。



2. 酒寺遺跡 第32次調査 (調査①)

調査地 播磨田町平成の里 3114

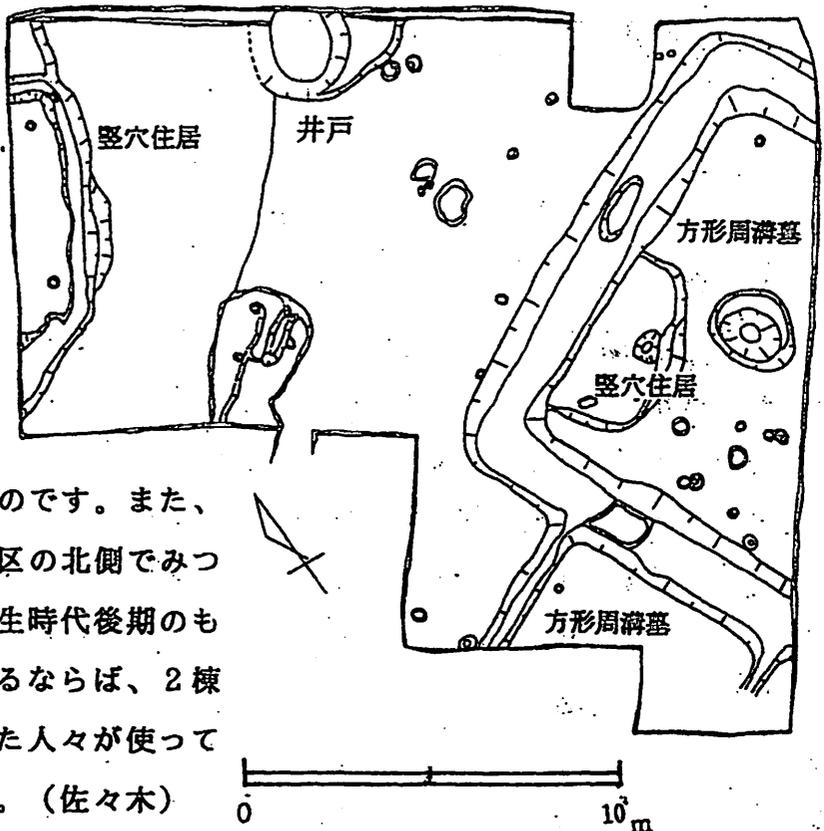
調査面積 約 270 m²

調査実施の理由 個人住宅建築

今回の調査では、^{たてあな}竪穴住居跡、^{とこ}方形周溝墓、^ど土壇、^{とこ}旧河道がみつかりました。
^{註12}時期的に新しいものから報告すると、まず^{註13}旧河道が調査区の西側で確認されました。これは、^{きやうたくち}区画整理事業が行なわれる前に流れていた河道であることが^{きやうたくち}旧宅地
^{えんか}地図や出土した^{えんか}塩化ビニール、^{せともの}瀬戸物等からわかります。調査区東側の^{せともの}方形周溝
墓ですが、調査区外の部分も以前調査されており、今回の調査によって全体がは
っきりとわかりました。^{きば}規模は一辺11mで、^{しやうこう}周溝の深さは40cm程度です。また
この^{こがた}方形周溝墓の南側には、^{こがた}小型の方形周溝墓と思われる遺構が、もう一基みつ
かり、^ど土層の^き切り合い関係から小型の方形周溝墓の方が古いと思われま

す。時期は、^{とも}共に古墳時代前半
のものです。^{とこ}竪穴住居
も2棟見つかりました。
一棟は、^{せともの}方形周溝墓に
^き切り込まれ、もう一棟
は、調査区の西側壁に
^{かべ}限られ^{ぜんよう}全容はわかりま
ませんでした。時期は、

^{とも}共に弥生時代後期のものです。また、
^ど土壇状の遺構が、調査区の北側でみつ
かりました。時期は弥生時代後期のも
ので、これを井戸とするならば、2棟
の^{とこ}竪穴住居に住んでいた人々が使っ
ていたのかもしれませんが。(佐々木)



3. 酒寺遺跡 第33次調査 (調査②)

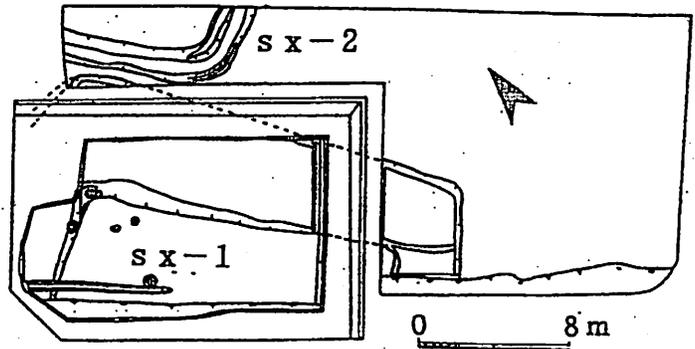
調査地 播磨田町字上駒 379-6

調査期間 6月19日 ~ 6月23日

調査面積 約 220 m²

調査実施の理由 ^{てんぼ}店舗建築

今回の調査は、区画整理地内の水田地で、調査①の道路向かいに位置しています。ここからは2基の方形周溝墓がみつかりました。1基(SX-1)は、すでに調査を終えている開発地の一部で検出した周溝墓の続きですが、他の1基(SX-2)は、今回新たにみつかりました。SX-1に比べSX-2の周溝幅は1.5m前後と狭く、形状も異なりませんが、^{たいせき}堆積土や^{ほうい}方位が似ていることから、共に古墳時代前期に築造された墓であると考えられます。この^{しゅうへん}周辺でも同じ時期の方形周溝墓が見つかっていて、大規模な^{ほいき}墓域になっていたようです。(岩崎)



4. ^{ふたまちかがみ}二町鏡遺跡

調査地 ^{どうのうち}二町町字堂ノ内 216、217

調査期間 5月29日 ~ 6月16日

調査面積 約 400 m²

調査実施の理由 ^{きょうどうじゅうたく}共同住宅建築

今回の調査は^{ものべ}物部幼稚園の南東側の水田地の^{とうざい}東西2箇所に調査区を^{もつ}設けて^{じっし}実施しました。物部小学校付近から二町町の現集落にかけて二町鏡遺跡が広がりますが、調査地からは^{かまくら}鎌倉時代後期の集落の一部がみつかりました。調査地南東側の道路建設、さらに南東側の^{ぞうせい}造成地の調査では14世紀代の^や屋敷跡が見つっています。屋敷跡は^{おちや}母屋、規模の小さい^{せみや}副屋、そして井戸などで^{こうせい}構成されていて、屋敷地のまわりを^{ほり}四角く^く濠で^{せう}区画しています。このような区画が何区画も^{せいぜん}整然と広がって、^{ちゅうせい}中世の村を^{けいせい}形成していたことがわかっています。今回の調査地からも、屋敷跡を^{けんしゅつ}検出しましたが、^{たてか}あいにく建替えに伴って、^ほ濠が^{なほ}掘り直されたために建物^{はいち}配置や規模はわかりませんでした。約200m²の南側の調査区から4基の井戸跡がみつかり、^{つうじょう}通常一時期の^や屋敷に一基の井戸を設けていたと考え、4回の^{たてか}建替えが行なわれたと考えられます。また、北西側の調査区からも、それに対応するように^{たてか}建替えの度に^{ほり}掘られた3条の濠を^{けんしゅつ}検出しました。二町鏡遺跡に

眠る中世集落は、保存状態がよいことと、かなり長い間存続していることなど、貴重な遺跡であるといえます。

(岩崎)

5. 古高城遺跡

調査地

えんまどう とも 0 5m
 焰魔堂町字友

調査期間

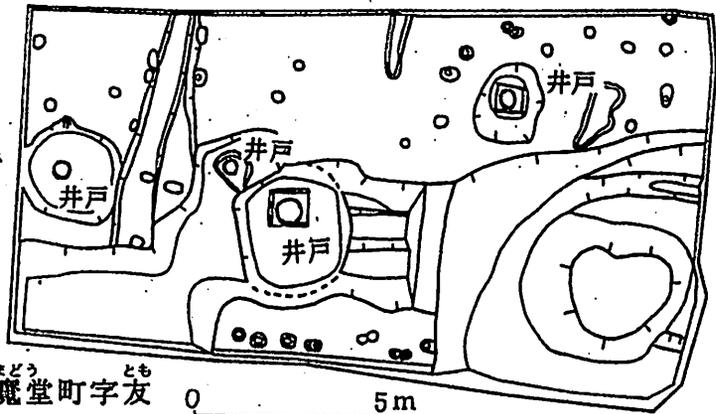
5月8日 ~ 6月9日

調査面積

約 633 m²

調査実施の理由

てんぽ 建設
 店舗建設



守山南中学校の400m程南東(守山スポーツ場の隣)にある水田地を発掘調査しました。その結果、土壇や柱穴などがみつけられました。遺物の出土がほとんどありませんでしたので、詳しい時期は限定できませんが、周辺の調査から平安時代以降のものと判断されます。

(川畑)

6. 吉身西遺跡

第66次調査

調査地

守山町字南高田

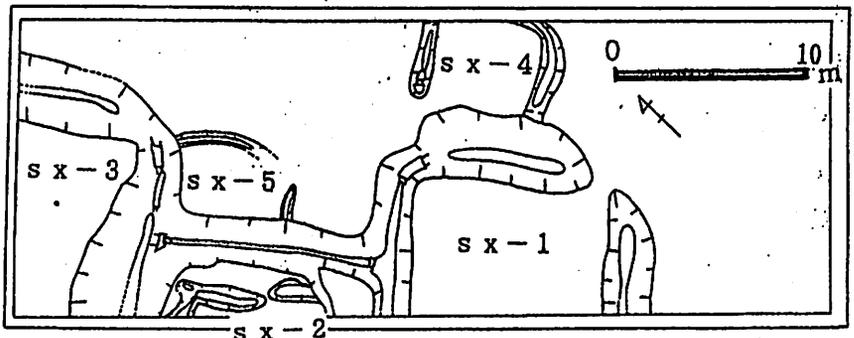
調査面積

約 730 m²

調査実施の理由

共同住宅建築

調査は、守山警察署と県立成人病センターの間に広がる区画整理地内で行いました。今回の調査では、5基の方形周溝墓などが見つ



かりました。このうちSX-1からSX-3は昭和61年度の調査で部分的に発掘されていたものです。その時の調査では2列に配置される方形周溝墓群が見つかっていましたが、今回の調査により、これらの周溝墓群が小型の周溝墓群(SX-4、SX-5)を壊して造られていたことがわかりました。しかし時期差はほとんどなく、どちらの周溝墓も弥生時代中期末のものと考えられます。

(藤原)

SSS SSS SSS 調査中 SSS SSS SSS

7. 大洲遺跡 第5次調査

調査地 阿村町字大洲162番地 他

調査期間 平成6年10月 ~ 平成7年7月 (予定)

調査面積 約 1,800 m²

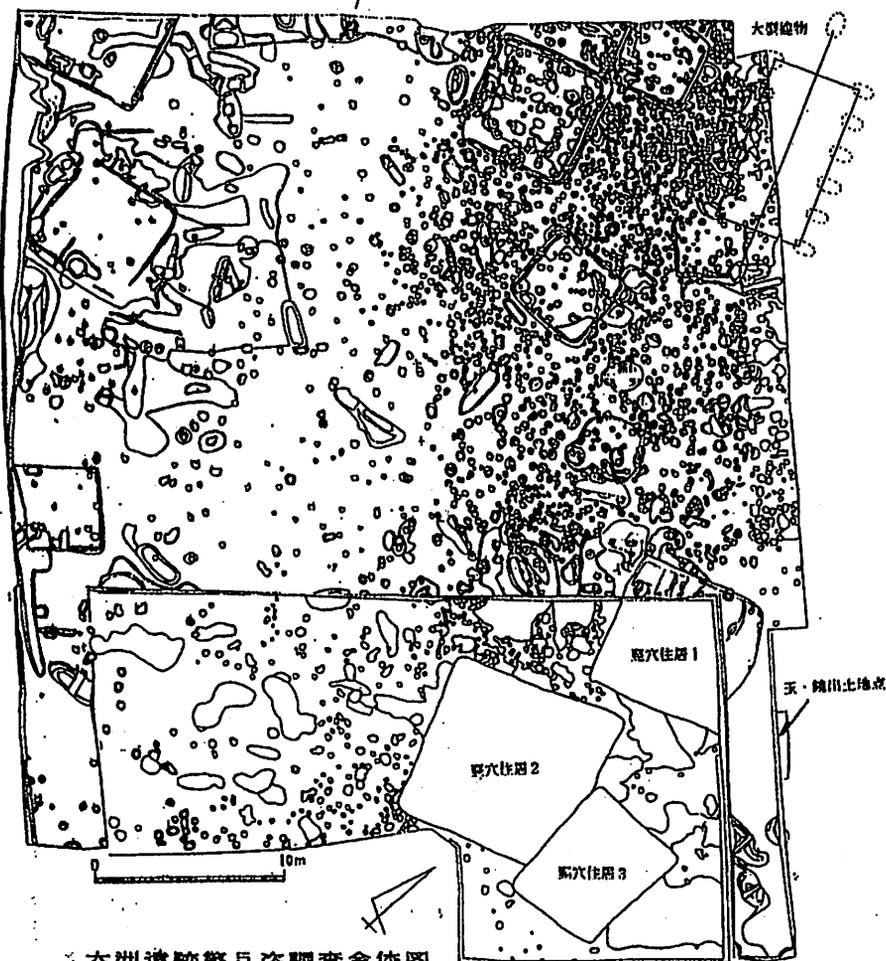
調査実施の理由 宅地造成工事

現在、調査区の南東部分の調査を行なっています。平面検出の結果、3棟の竪穴住居が見つかった。土壙・柱穴が多数検出されています。竪穴住居1は一边が約7m×7.2mを測るもので、弥生時代後期末の土器が出土しています。一边が約9mを測る大型の竪穴住居2は、竪穴住居3に切られています。いずれも弥生時代後期末から古墳時代初めの住居とみられます。これらの住居に切られて

土壙や柱穴が見つかっています。これらは現在調査中であり、次号で年代や性格について報告したいと思います。なお、調査地の東隅において、径10cm程の小さな落込みが見つかりましたが、ここからは、玉と鏡が出土しました。

[表紙掲載]

(伴野)



大洲遺跡第5次調査全体図

8. 酒寺遺跡 第34次調査 (調査③)

調査地 播磨田町14街区3
調査期間 6月27日 ~ 8月4日 (予定)
調査面積 約 380 m²
調査実施の理由 共同住宅建築

調査③も区画整理地内で実施しています。調査①、②とは少し離れていて琵琶湖大橋取り付け道路沿いの大型店舗の北西側に近接する水田地です。調査地の西側に隣接する共同住宅の調査で見つかった竪穴住居が広がることが確認されています。現在、着手したばかりですので、成果は次号で報告します。(岩崎)

9. 下長遺跡 第14次調査

調査地 大門町字盆瀬坊 323-1 番地
調査期間 4月24日 ~ 7月31日 (予定)
調査面積 約 2,054 m²
調査実施の理由 工場用地造成

今回の調査では、古墳時代初頭と思われる溝を数条確認しました。さらに下層を調査中ですが、縄文土器が多数出土しています。この地点は、2年程前に縄文時代中期末の、市内でも最古の竪穴住居跡が発見された場所の隣接地にあたります。今後の新発見に期待がふくらみます。

(杉原)

10. 塚之越遺跡 第8次調査

調査地 古高町地先字塚之越
調査期間 5月20日 ~ 7月31日 (予定)
調査面積 約 700 m²
調査実施の理由 倉庫建設に伴う事前調査

今回の調査地では、遺構が表土直下で確認され、主とし方形周溝墓が検出されています。以前の調査と合わせて考えると、付近一帯は弥生時代後期から古墳時代にわたっての墓域であることがわかってきています。また、縄文時代の土器も多数出土しており、周辺遺跡にあたる下長遺跡の縄文集落との関連が注目されます。

(佐々木)

11. ^{ニノ}二ノ畦・^{よこまくら}横枕遺跡 第27次調査
 調査地 ^{しも}下之郷町字向八代1-1番地
 調査期間 6月15日 ~ 10月31日
 調査面積 約 2,100 m²
 調査実施の理由 店舗建築

二ノ畦・横枕遺跡はこれまでの調査から弥生から古墳時代にかけての集落遺跡であることがわかっています。なかでも弥生時代中期の集落については、^{ちよっかい}直径が550mを超える^{なみ}環濠が周囲に掘りめぐらされており、全国でも^{くし}屈指の規模を誇っています。今回の調査地点は、守山市の東端、野洲町との^{しちやうぞかい}市町境に位置し、環濠の内側部分にあたります。これから秋口にかけて調査を進めていきますので、詳しい調査成果は、今後お知らせしていきたいと思ひます。 (川畑)

12. ^{はりま}播磨田^{とうがし}東遺跡 第6次調査
 調査地 播磨田町字北横内 110番地の1
 調査期間 5月22日 ~ 7月31日 (予定)
 調査面積 約 600 m²
 調査実施の理由 共同住宅建築

現在調査中ですが、古墳時代前期の^{けつ}竪穴住居2棟がみつかっています。一方の^{かっせき}竪穴住居からは^{まがたま}滑石製の^{うすたま}勾玉、^{うづこ}白玉、^{うづこ}有孔円板、^{うづこ}チップ、などが出土しており、この住居内で玉がつくられていたと考えられます。また^{#15}工具らしい^{てつせいひん}鉄製品も出土していることから、玉つくりとの^{かんかん}関連でみると非常に^{きやうみ}興味深いといえます。もう一方の竪穴住居は、一辺が約6mの規模で、南東辺に^{しやうへきこう}周壁溝がめぐり、その中に^い杭の跡が残っていました。この住居からは多数の土器が^{#16}出土しています。これから、さらに調査区を広げていく予定で、今後の調査に期待がもたれます。

(木村)

13. ^{ほしが}欲賀南^{みなみ}遺跡
 調査地 欲賀町字高座
 調査期間 6月7日 ~ 12月22日
 調査面積 約 5,300 m²
 調査実施の理由 ほ場整備事業

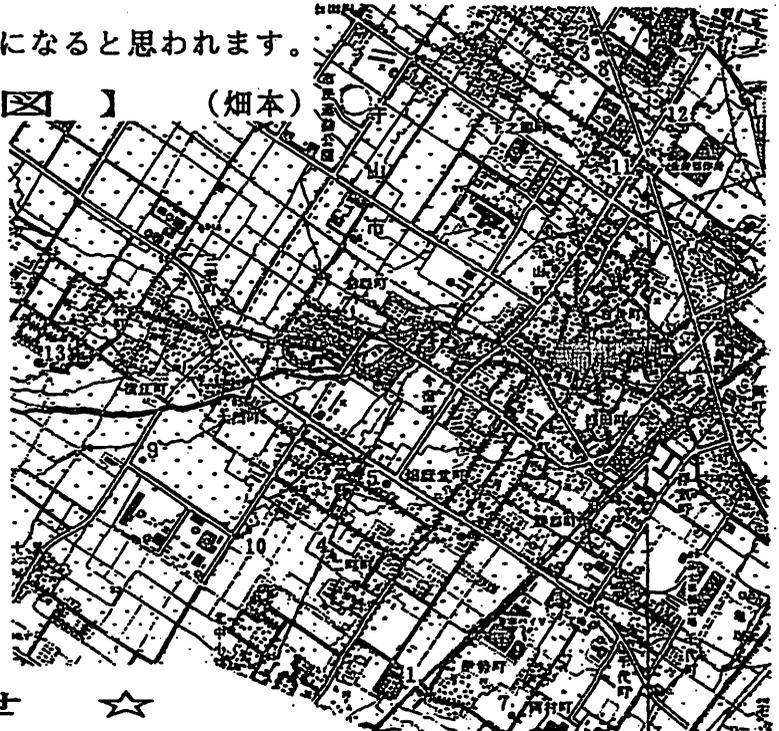
4年目に入ったほ
場整備事業に伴う調
査は、欲賀、休見団
地の南側の道路・水
路及び削平される畑
地が対象です(別図

網かけ部分)。すでに、

南端にあたる水路部分の調査
は終了しており、ここから幅広い溝を検出し、縄文時代晩期の鉢、弥生時代後期
の高坏などが出土しました。この溝は隣接する横江遺跡の調査で見つっている
旧河道の一部と考えられます。横江遺跡では規模は不明でしたが、今回の調査で
十数mの幅をもった旧河道になると思われます。

【 調査位置図 】 (畑本)

1. 伊勢遺跡(28㍏)
2. 酒寺遺跡(32㍏)
3. 酒寺遺跡(33㍏)
4. 二町鏡遺跡
5. 古高城遺跡
6. 吉身西遺跡
7. 大洲遺跡(5㍏)
8. 酒寺遺跡(34㍏)
9. 下長遺跡(14㍏)
10. 塚之越遺跡(8㍏)
11. 二ノ畦・横枕遺跡(27㍏)
12. 播磨田東遺跡(6㍏)
13. 欲賀南遺跡



☆ お知らせ ☆

埋文センターでは、下記のとおり守山の歴史入門講座(遺跡編)を開催してい
ます。ふるってご参加をお願いします。申し込みは、直接センターへお申し出下
さい。聴講料は無料ですが、資料代実費分(6冊で200円)をいただきます。

第3回目は、『服部・吉身西・酒寺遺跡の弥生墓域』
という内容で、来る8月9日(水曜日)に行ないます。

今回の講師は、当センター職員の畑本政美が担当致します。

☆ 文化財調査の窓 ☆

『文化財と動物』

平成7年6月の上旬、センターの職員が“タヌキ”を見たという。私も数日後センター裏のシャッター側の東側のコンクリートの壁^{かべのした}下で、思わず見ることができた。黒い顔^{はな}で鼻^{はな}がとがっていた。感激^{かんげき}した。同時に哀れ^{あわれ}になった。平成7年に入った頃、センターの裏では大きな重機^{じゅうき}が動いて堤防^{ていぼう}がなくなって、もとの川の砂が山と積まれ、それまで静かだったところが、工事現場と化していたのを6ヶ月後に“タヌキ”と同時に哀れと感じたのであった。動物に対してと野洲川に対して、そして私自身に対して。センターの機関誌『乙貞』の第何号であったか、「野洲川こそ文化財！」というテーマで小文を書いたことを思い出した。動物の住む場所がなくなり、ついにコンクリートの穴の中になったこと、文化財と言った自分が消滅^{しょうめつ}しつつある川に全く何もなさなかったこと、数十年の生活の中で今まで見なかった動物を見た感動が、自分の哀れと混じって、後味の何とも表現のしようもない感情だ。遺跡を発掘して、これまでに多数の動物の骨を掘り出したことがある。県内では、まだ発見例はないが、丁重^{ていちょう}に埋葬^{まいそう}した犬があるようだが私の掘った骨はいずれもバラバラで解体^{かいたい}されたようなものばかりであった。人間が生きていくなかでの「食^{しょく}」としての残骸^{ざんがい}であろうと考えることにしたが、今回の“タヌキ”は「食^{しょく}」としての財産^{ざいさん}ではなく、無視^{むし}された生命^{せいめい}なのである。しかも文化財のなかで生きてきた生命^{せいめい}である。文化財を護^{まも}ることが動物を護^{まも}ることに繋^{つな}がり、そのことが人間の生活^{せいかつ}に有意義^{いういぎ}だと感じた瞬間^{しゅんかん}であった。反省^{はんせい}します。

☆ 文化財用語解説 ☆

註1) 装飾品の一種で、湾曲した体部の一端に孔をあけている。孔のあいている方を頭、その反対側を尾という。縄文時代から古墳時代に使用されている。

註2) 円筒形の竹管状の玉。

註3) 中央が太く、両端が細い楕球形で、縦に紐通し孔を持つ玉である。ナツメの実に形が似ているため、この名がある。

註4) 管玉の極めて短いもの。茶臼の形に似ていることから、この名がある。

註5) 不透明で緑色の石材。

註6) 軟らかくて煙のようななめらかな肌触りで、色は、白または緑色で、すじが入っている岩石。

註7) 凝灰岩自体は、火山灰などの火山噴出物が固まって出来た岩石で、このうち緑色で緻密なものを指す。

註8) 文様を持たない小さな鏡で、材質はあまり良くない青銅^{せいどう}でできている。

註9) 人間生活の痕跡のうち、地面に掘りこまれたもの。たとえば、住居、倉庫、井戸などがそれにあたる。

註10) 人間生活の痕跡のうち、持運びできるもの。たとえば、土器、石器などがそれにあたる。

註11) 弥生時代から古墳時代につくられた墓(墳)の一種。方形に溝を掘り、中央に土を盛り上げ、そこに人を埋葬^{まいそう}していた。

註12) 地面を円形、方形に掘りくぼめ、その上を屋根で覆った建物のこと。

註13) 地面に掘られた穴のこと。

註14) 住居群の中でも、家長の住んでいない建物のことで作業小屋や納屋のようなもの。

註15) 石を使って鏡を模したもの。円盤状で、紐にあたる中央部分に1つ、あるいは2つの穴があけてある。

註16) 壁穴住居の壁面に沿って床に設けられた溝のことで排水や壁面を守ための施設。